

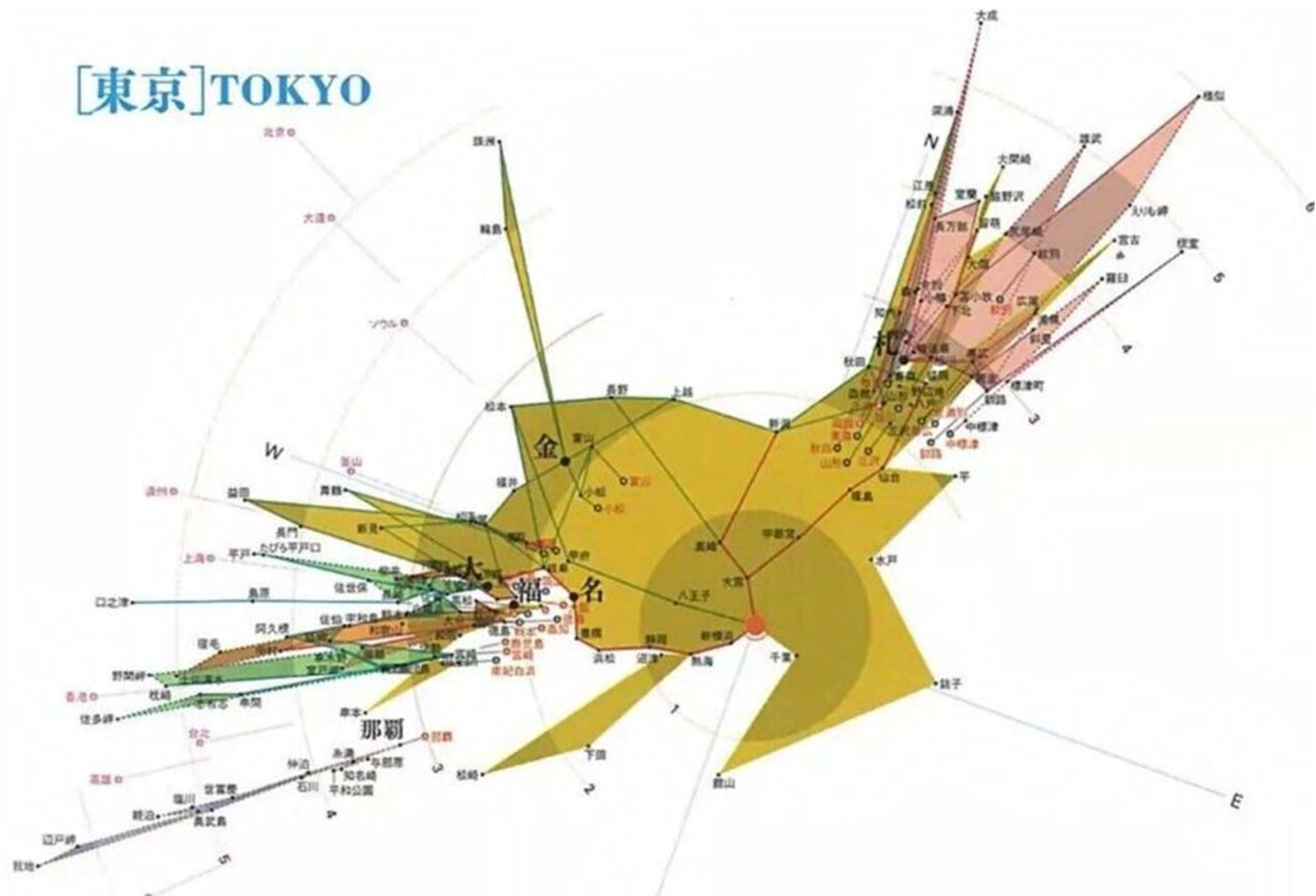


# やさいバス株式会社

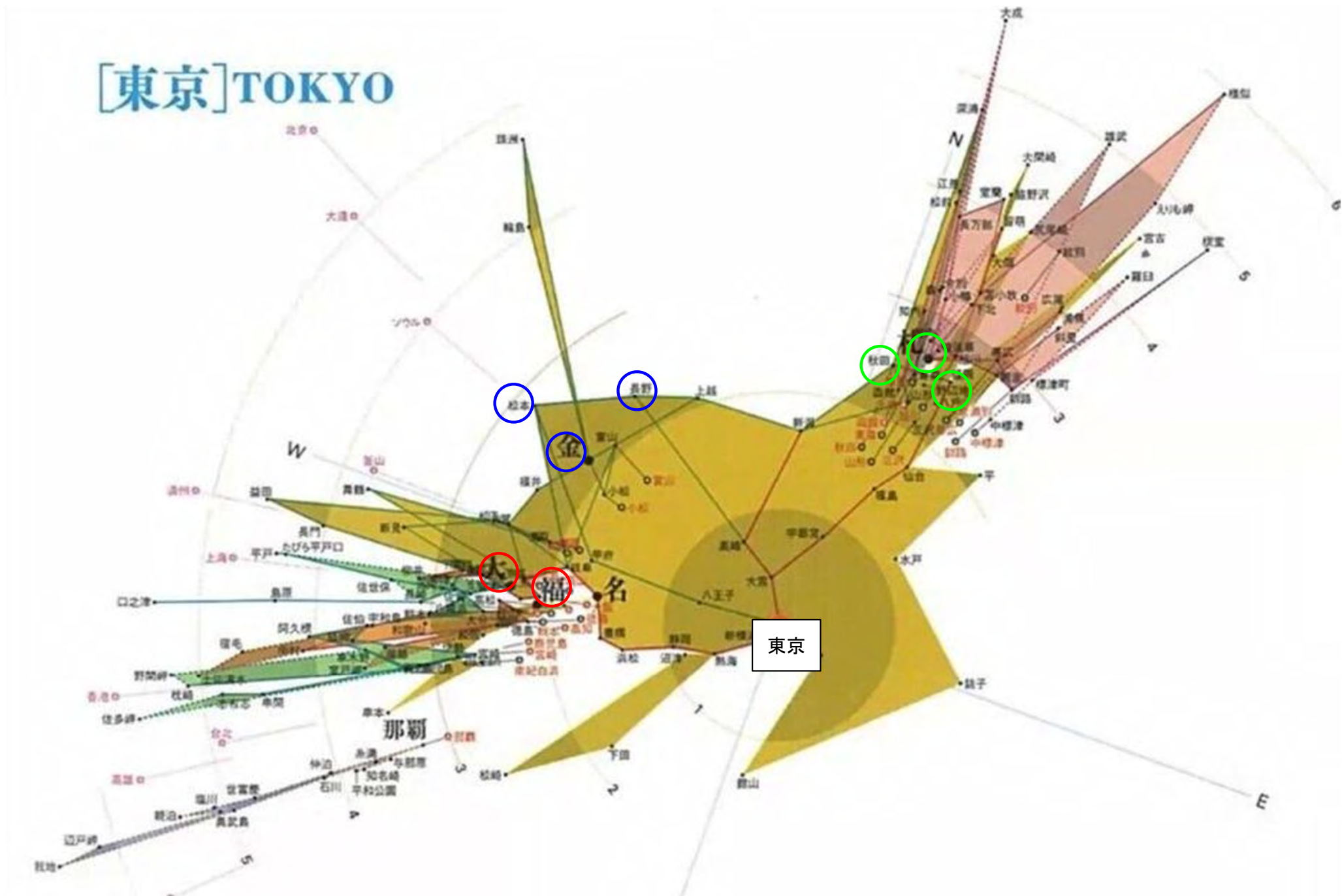
農業×ANY=Happy

誰もが美味しい食を手に入れられる社会を目指して

# [東京] TOKYO



# 東京から各地の時間を表した地図



# やさいバス 野菜でつながる「おいしい」物流サービス



EC+共同配送を一体型としてシステムを  
コミュニティと共に地域実装していきます。  
合言葉は「無理なく」「美味しく」「楽しく」

# システム：出荷する



販売価格を決める  
※販売価格の15%は当社  
手数料

ラベルプリンター  
もしくはプリンタ  
があると便利

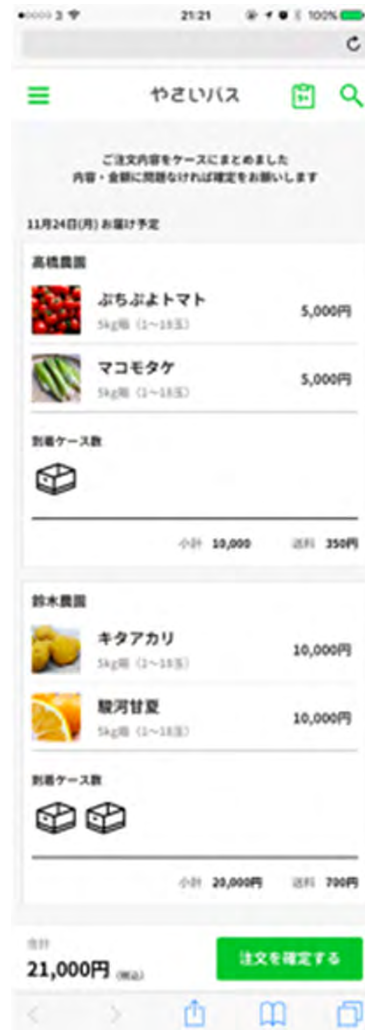
出発！

# システム：購入する

探す

注文

バス停へ



## 到着！

携帯のQRコード  
読み取りで受領完了

ケース数は自動で計算  
送料は1ケースごとに発生



## Restaurants

- ✓ 2% コスト↓
- ✓ 鮮度UP
- ✓ お客様と会話増で売上UP
- ✓ フランチャイズしやすく

## Producers

- ✓ 販路拡大で売上UP
- ✓ ファンづくりができる
- ✓ 配送コスト10%Down
- ✓ 伝票処理なし

✓ QRコードでステータス管理

✓ ペーパーレスで全体の間接コスト圧縮

✓ ダイレクトマーケティング

## 地域資産を活用（例/静岡）



松坂屋静岡様

地域の方にもご活用いただけるよう  
コミュニティーセンターなどの交流場所を  
バス停として活用しています。

遊休資産を活用させて頂くため、  
原則無償でご協力頂いております。



増田採種場（農家）様



倉庫内にカゴ車設置



## JA様直売所を活用（例/茨城）



JA水戸グリーンハウスひぬま様



JAやさと里の四季さま



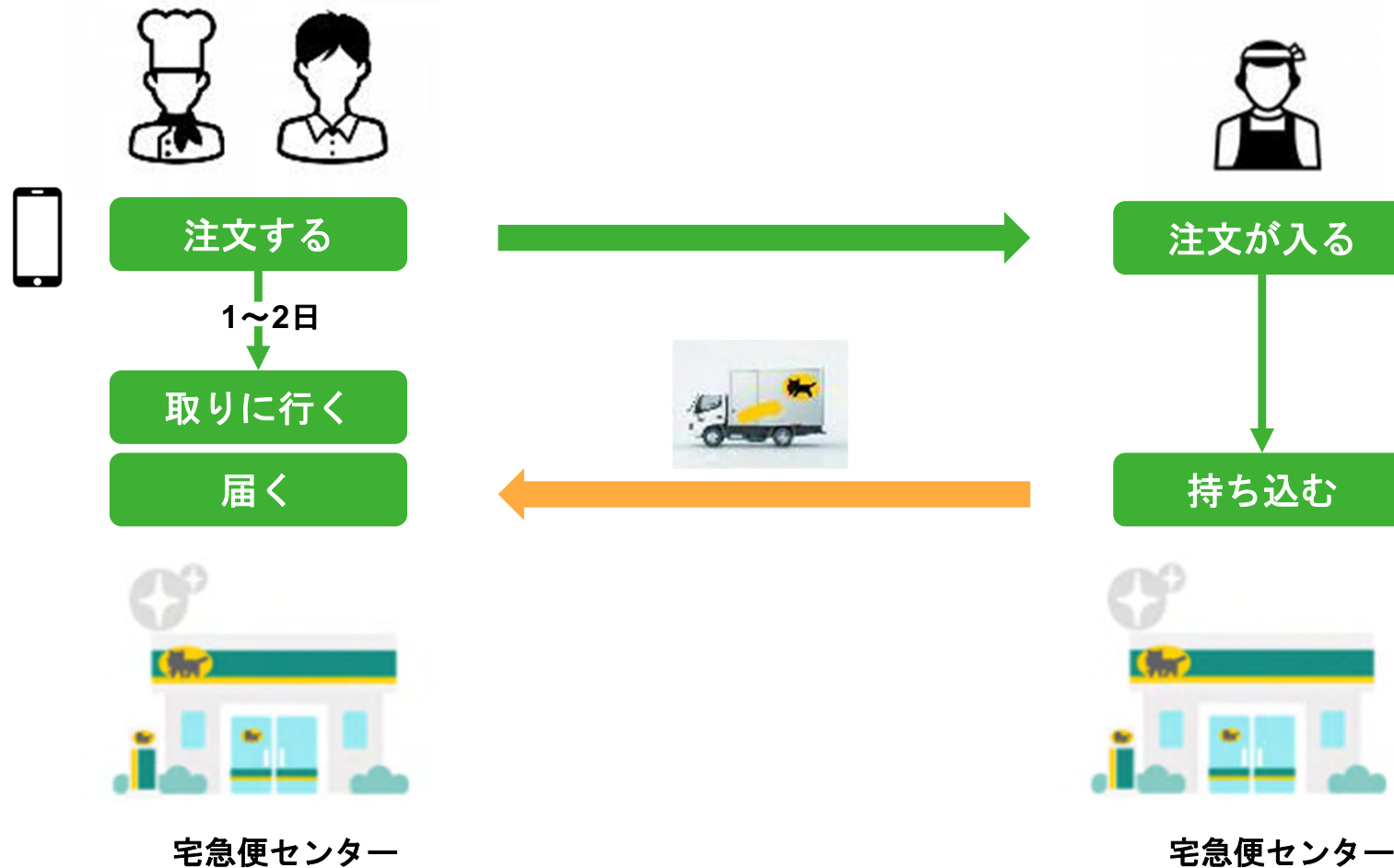


## 広域連携も可能に！

**全国4500ヶ所**

最寄りのセンターからセンターへ

※個配も可能です



# 事例 / 小売店舗での展開



リンコスベイタウン店



イオン鴨川店



タカラエムシー リベロ店



そごう広島店



松坂屋静岡店



MUJIパルコ広島店

## 「地域スーパー化」を目指す大手コンビニとの連携事例が増えています

写真は長野県内でセブンイレブンをFC展開されている事業者様店舗になります



# 事例 / JA全農との連携

JA全農社内でのビジネスコンテスト「Zennovation」で、全農×やさいバス「Zbus」事業構想が最優秀賞を受賞したことにより連携を強化しています。すでに「たべるJaん山梨」（JA全農運営）への魚の供給を開始しており、各地での連携準備を進めています。

- JA全農：生産者の取りまとめ・品質管理、購買者との接点（Acoop、Family Martなど）
- やさいバス：受発注と物流の仕組み、購買者営業、地域チームづくり



「たべるJa（じゃ）んやまなし」での販売の様子

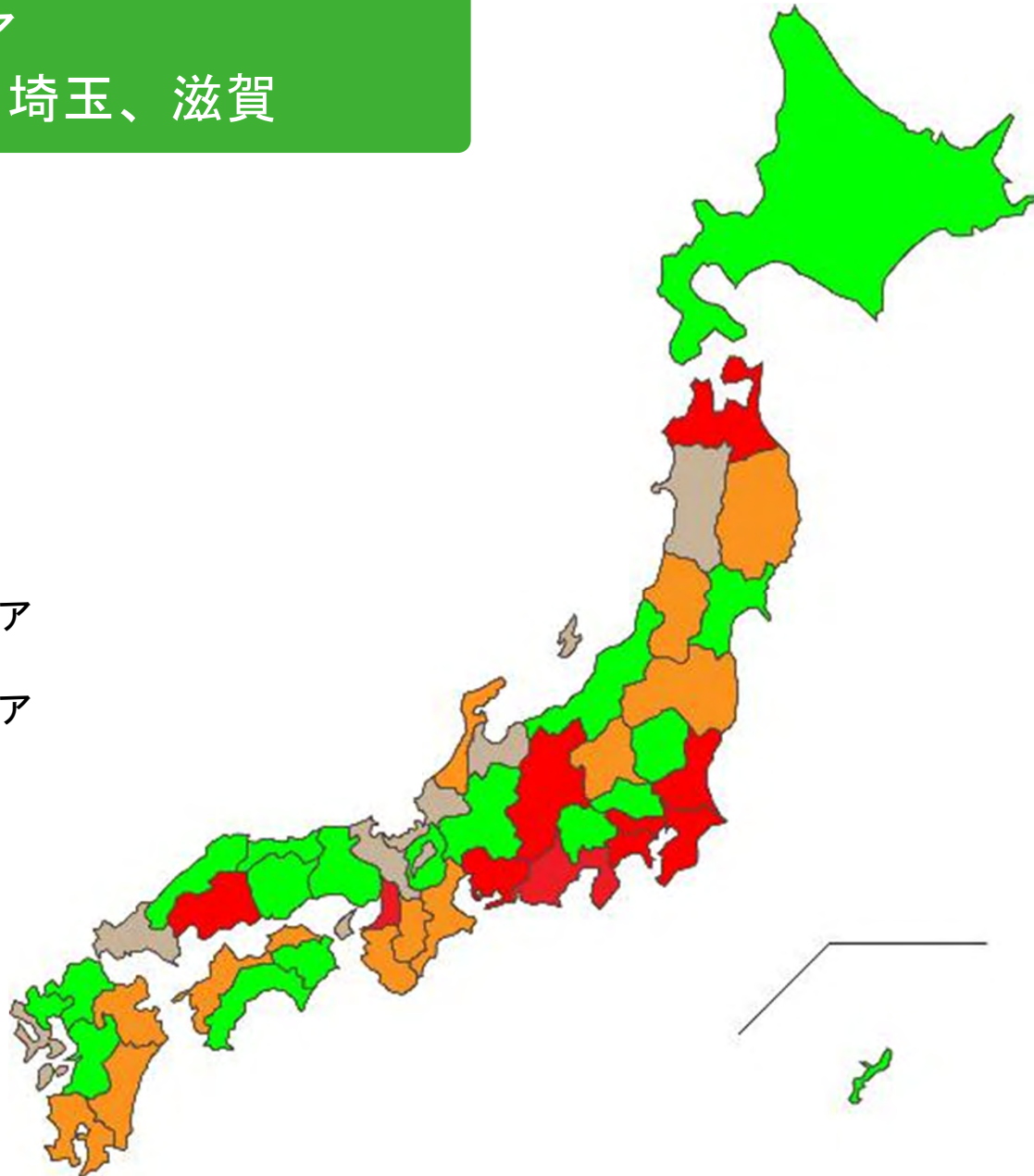


12月2日 Zennovation授賞式

# やさいバス展開地域

2021年度新規エリア  
青森、大阪、兵庫、埼玉、滋賀

- 展開済エリア
- 立ち上げ準備中エリア
- 問い合わせありエリア

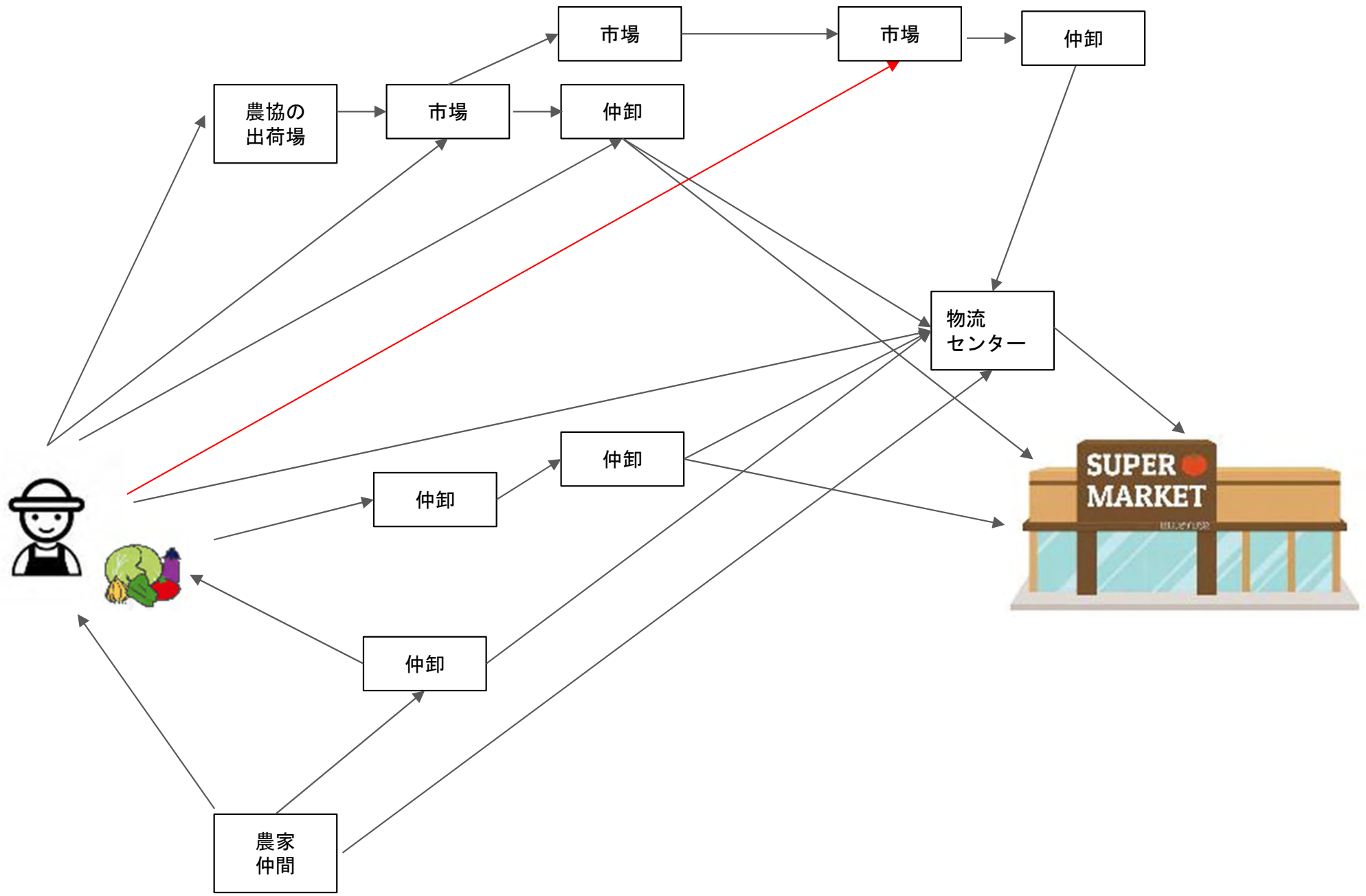




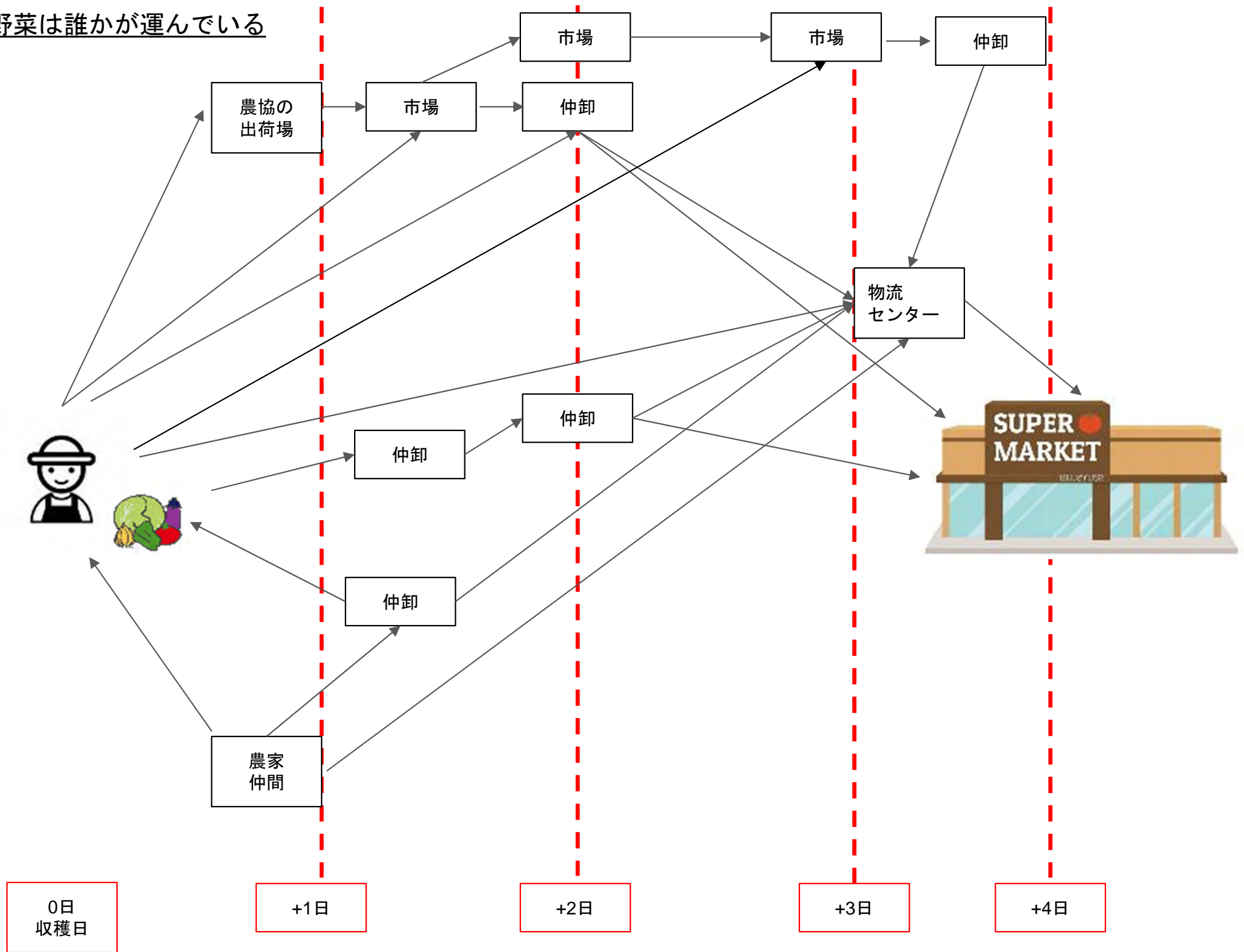
コードがころころ変わる！



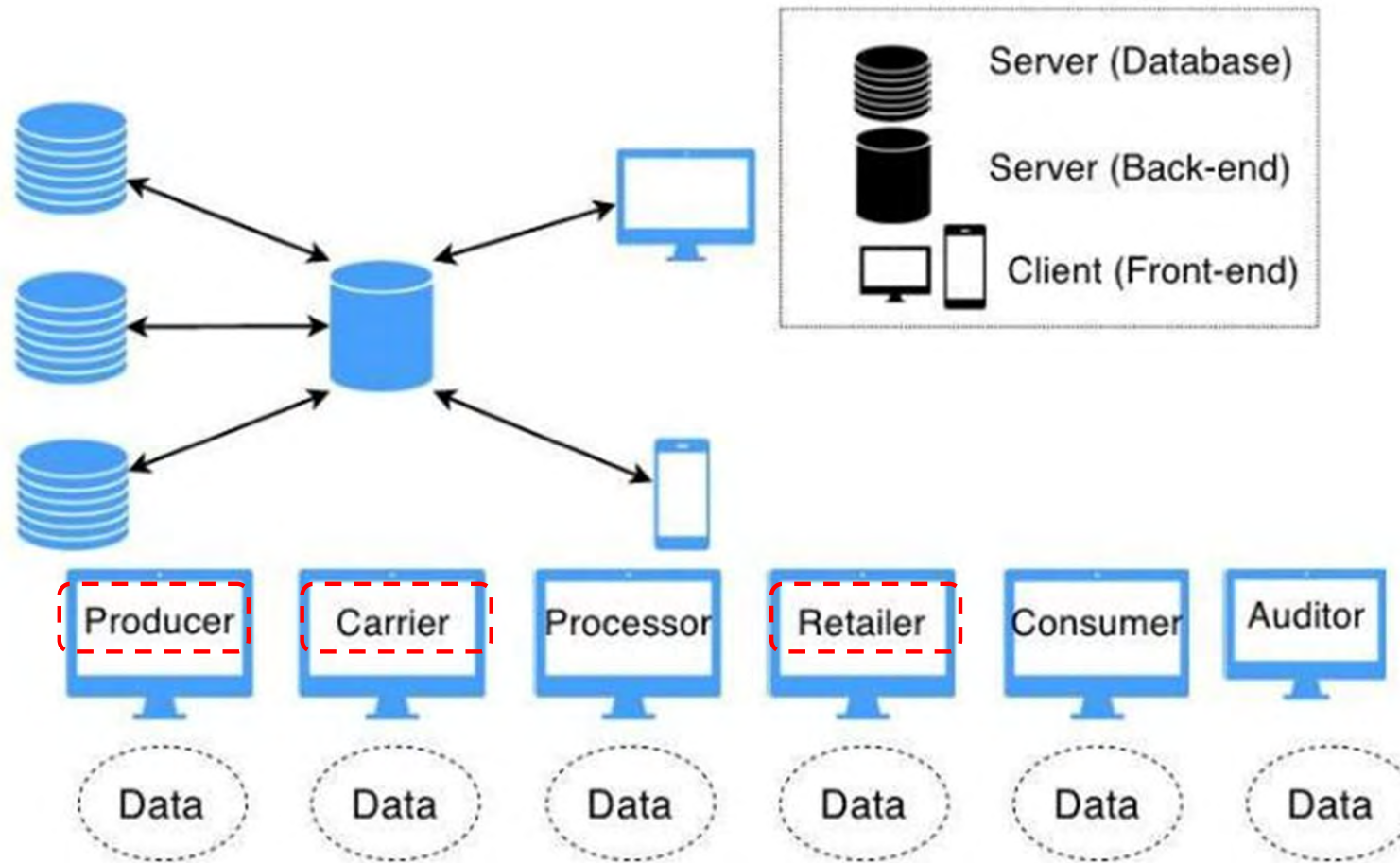




# 野菜は誰かが運んでいる



# 現状のデータ管理の構造



× 各関係者が必要な情報だけ自社で管理

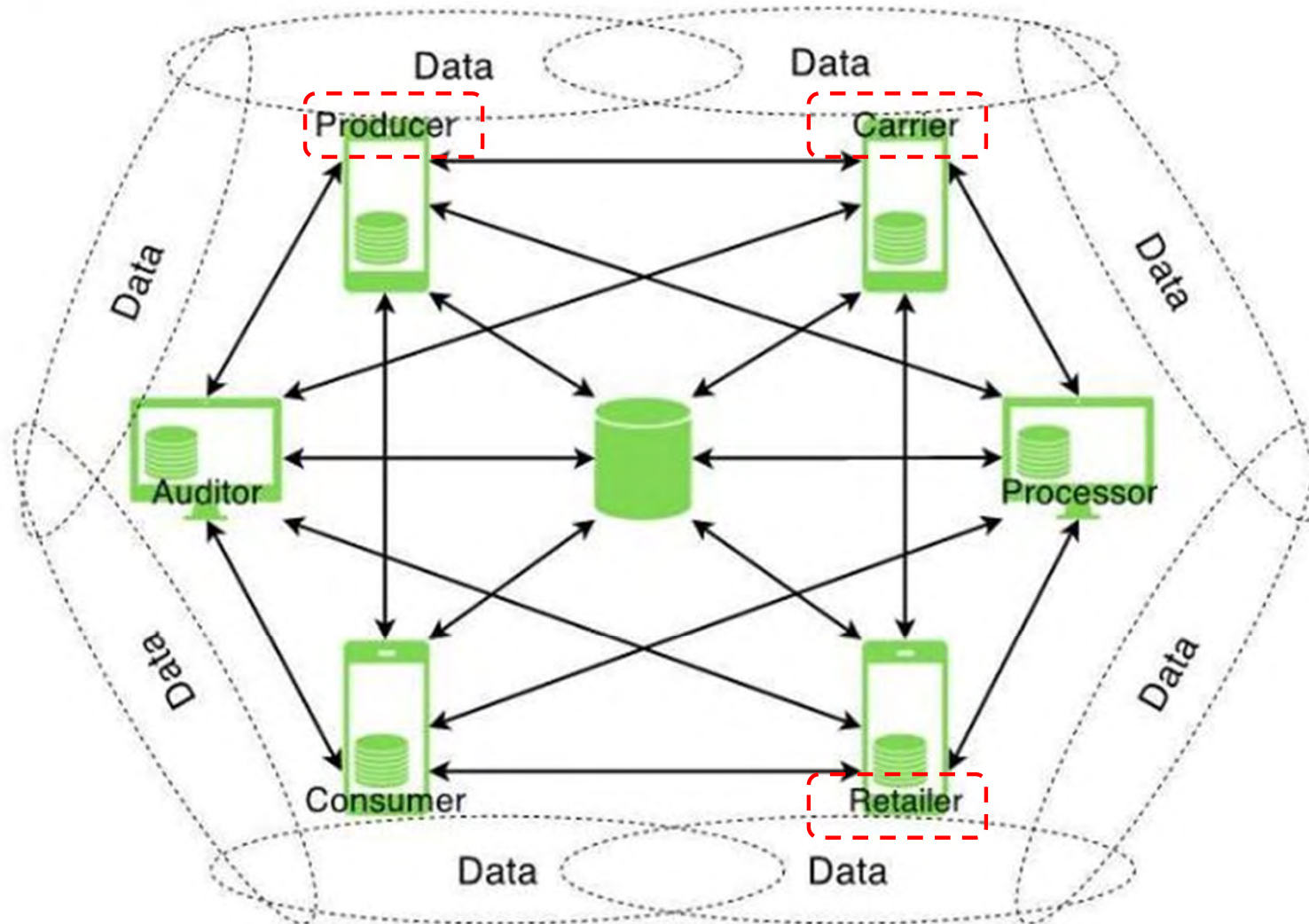
× 情報が分断されている

× 物の動きと商品の動きが別のデータ

# 1つの商品を登録するまで

	スーパー	やさいバス	生産者
1日目		商品にJANを付与した状態で 提案リスト作成	JANを持っていれば登録
	採用商品の決定		
		新規商品コード付与の依頼	
2~3日目	商品コード設定 (システム上最低でも1日かかる) すでに市場経由などで登録されているJANの場合は、登録不可と連絡がくる。	POP作成	
	決定した商品コードを連絡	JAN配布	
3日目	(新規商品コードが使えるようになっている)	各店舗へ商品コード付で商品一覧を共有 POPも送付	
4日目		商品コード一覧に、やさいバス 商品IDを記載する	JANが届く。商品に貼り付け。
	新規商品の納品が開始	商品コードと商品IDを紐づけて納品書、請求書を作成していく。	

# やさいバスの構造



誰のデータか明確に  
データを共有し透明性を高める  
QRコードで誰でも取得しやすく

# やさいバスの構造を支えているもの（例）



到着時刻	停留所名
7:30	JAやさと里の四季
7:43	JAやさと中央集荷場
8:11	うしおだ農園
8:25	笠間茶屋
8:44	JA水戸直売所内原のめぐみ
9:12	城里町役場
9:30	道の駅かつら
10:25	道の駅さとみ
11:15	あかつ水産
11:45	無印良品ファッションクルーズひ
12:05	カスミひたちなか笹野店
13:00	鯉淵学園農業栄養専門学校
14:30	無印良品イオンモール水戸内原店
14:48	道の駅 かさま
15:06	田村きのご園
15:24	IDC(カスミストア岩瀬センター)
15:42	JAやさと中央集荷場
16:15	CDC(カスミ中央流通センター)

生産者  
スマホやPCで  
商品登録

物流会社  
QRコードで  
配送・物量確認

小売り  
時刻表で全体ルートを  
共有

# なぜやさいバスなのか

背景	生産	農業従事者の平均年齢 67.8歳（70歳が離農の分岐点）20%台で減少が進んでいる。 耕作放棄地 40万ha（埼玉県2つ分の広さ） 新規就農者の配送負荷により生産性の向上が鈍化。
	物流	青果物流の積載率平均 約42%。配送ルートの重複が常態化。 物流従事者の平均年齢 41.3歳。免許制度により担い手が減少。 物流企業労働時間の法改正で9時間拘束に変更となる（名古屋～東京が日帰りできない）
	販売/流通	市場の老朽化と仲卸の高齢化。HACCPなど義務化による負荷。（建替え資金がない） 地方市場の統廃合や民間企業による買収。 JAの直売所は全国的に約半数が赤字。野菜が集まらない地域が増えている。

農産物、食料品を生産しても  
最適な状態で届かなくなる状況が差し迫っている

持続可能な物流を創出し、農産物、食料品を当たり前、誰もが手に取れる社会を実現する。

ルートに見える化をし共同配送  
物流の持続性を高める



商取引、配送手配の間接コストを  
削減し収益性を高める



# 事例



## BLANDEつくば並木店

- ①部門がない
- ②自動走行ロボが営業中も動く
- ③ウェルシアとレジが統一



# やさいバスが大切にしていること



## SmartCommunityのOSを目指し 地域と共創

農は社会基盤産業  
ゆえに、コミュニティづくりの基礎に必須

無理なく

かね、時間、気持ちに無理なく

おいしく

安全でおいしい食をつくり、手に入れ食す

楽しく

日常をわくわくしながら

誰もが美味しい食を手に入れられる社会



ご清聴、ありがとうございました！